

2012 年度成蹊大学法科大学院入学試験 民事訴訟法

問題 1 (配点 30)

(1) 裁判上の自白の撤回可能性について説明しなさい。

(2) Xは、Yに対し、売買契約に基づき甲建物の引渡しを求める訴えを提起した。この訴訟において、Yは最後まで売買契約の成立を否認して争った。裁判所は、証拠調べの結果、売買契約の成立は認められるが、6000 万円の売買代金のうち 1000 万円は未払いであるとの心証を得た。

この場合、裁判所はどのような判決を言い渡すべきか説明しなさい。

問題 2 (配点 20)

Xは、Yを被告として、1000 万円の報酬金請求権のうち 200 万円の支払いを求める訴えを提起した (以下、この訴訟を「前訴」という)。この前訴において、Xの請求を認容する判決がなされ、その判決は確定した。その後、Xは、Yに対し、同じ報酬金債権 1000 万円のうち、前訴で請求した 200 万円を除く 800 万円の支払いを求める訴えを提起した (以下、この訴訟を「後訴」という)。後訴について、裁判所は、どのように判断すべきか。